

対詠 ごきげんいかが？

K N O
河村 郁子 小野澤繁雄
布宮 慈子

吃逆^{しやつくり}がとまらぬ人に乗りあわせ車内はしばししずかになりぬ

1月24日 O

昼ごはんを母と食べれば静かにて低く聞こえる吃逆^{しやつくり}の音

1月28日 N

しやくりつつ急ぎ止めむと念ずれどおのれ脅かす術なきあはれ

2月2日 K

図書館「本が泣いています」なかに校閲をしている書き込みもある

2月7日 O

「100万人の年賀状展」眺めたり杜の都の文学館に

2月11日 N

エクセルに発送名簿を打ち終へて拙著の受け取り願いてをりぬ

2月15日 K

なんとなく口さびしさに置く豆に今はいかり豆皮ごとを食む

2月21日 O

ガルバソのカレーといふはやさしくてひよこ豆の顔つくづく眺む

2月26日 N

あざやかな黄の花咲かせ地の中に育ちしピーナツと一粒を噛む

3月1日 K

沼のほとりの花というとも桜まで桜からとすそこが区分で

3月9日 O

札幌ゆ来し従姉妹らと共に食む前菜^への上の桜の花を

3月17日 N

対詠 ごきげんいかが？

K N O
 小野澤繁雄
 布宮 慈子
 河村 郁子

この日ごろ朝の散歩に出でて会ふ双葉公園の大きダリアよ

11月16日 N

牧野庭園ていゑんの白山茶花のあはひには乙女椿の密やかに咲く

11月17日 K

笑い声には年齢がある隅田川テラス歩いて声降るところ

11月22日 O

少しづつ覆はれてゆく雪の野に白鳥のこゑ降りくるごとし

11月25日 N

厳しかりし長旅終へて白鳥は羽をたためり 吾にし然り

11月30日 K

あるときはほとりに下りてみる水面下沼公園まだ生きている

12月2日 O

東京は曇り空にてスーパーの入口にある焼き芋を買ふ

12月8日 N

駅前駅前の石焼き芋の香が誘ふ安寧芋の一本を買ふ

12月10日 K

さつま芋掘りおる畑にいきあいぬ若きら云うは体験になる

12月11日 O

朝焼けの富士山を見つ東京ゆ帰り来たれば山形の雪

12月12日 N

赤富士を見しとふ友よそは吉兆 孫の生誕祝ひなるらむ

12月14日 K

久々に富士みるこの日気付いては六十九歳になりたるらしも

12月17日 O

月山も葉山もすでに白くしてパズルのやうな今日の緋月

12月21日 N

冬至過ぐる夜空にさやけき半月よ姉の黄泉路を導き給へ

12月26日 K

あつちでもいいんだけどもこっちでいい人がおしえてくれる近道

12月29日 O

2018年

雪道をゆつくり抜けて融雪の歩道を行けば「よなき石」あり

1月4日 N

散策に近道なして笑ひしも老いゆく足に近道嬉し

1月5日 K

壇蜜がしずかに選りし言のよさテレビの人の間に一人

1月8日 O

くり返し思ふことあり年賀状に書かれし言葉そのひとことを

1月14日 N

代筆とふ年賀状のそれぞれに思ひめぐらす書家なれば 猶

1月19日 K

対詠 ごきげんいかが？

小野澤繁雄
 布宮 慈子
 河村 郁子

夜いまだ真夏日の気温のままにして旧七夕のうす雲晴れず	8月29日	K
残党とはいわれないながらラジオ体操終りしあとも子らは遊んで	8月31日	O
赤とんぼ里に下りくる九月なりスイカの残り香あるごとき日々	9月4日	N
せはしげに庭ぬちに舞ふ黄の蝶よ心残りは吾にしおなじ	9月6日	K
先々へ追われんがにもハグロトンボ足すすめても足先にいる	9月15日	O
じりじりと台風18号北上す三連休をもともせず	9月18日	N
大型の台風かすめて過ぎし朝氣づかい合うは夜半の強風	9月20日	K
時間帯すぎても秋の風のなかみちの半ばは通学路にて	9月26日	O
西風が吹いてコスモス揺るる日はものみな透きて秋が来てゐる	9月30日	N
秋日なか菩提樹の実のあまた垂れ落つるともなく幽けくゆれる	10月1日	K
晴々と弓もつ者ら遠征か駅のホームに歩みならべて	10月2日	O
山形の国際ドキュメンタリー映画祭はじまり街に外国人増ゆ	10月7日	N
練馬区の「みどりめぐりの会」に入り万葉歌もて牧野庭園へ	10月8日	K
くさはらの一、二区画が野菜畑みどりのいろが少し違つて	10月12日	O
映画祭終れば木々の葉はすでに色づいてゐる山形の街	10月16日	N
桜木の葉に黄の色の交ざる様わが髪に触るる思ひこそすれ	10月20日	K
黄葉にあいたるみちは竿をもてたたいている人下に銀杏	10月22日	O
紅葉する瀧山 <small>もみぢ</small> ははや夕暮れて三日月浮かぶ色なき月が	10月26日	N
柿の木の青葉のあはひに潜みゐる橙 <small>たう</small> の実今年はたわわに生らず	10月28日	K
青桐の樹下にあそびしわれなれど甲冑色をみてすぎるのみ	10月31日	O
「神様の食べ物」といふ学名を知りたる夕べ柿の実甘し	11月5日	N
住む人の絶へて久しき庭内 <small>にはぬち</small> に熟れたる柿の一つが落ちぬ	11月8日	K
あら草の手のつけられぬその中を低く囲いてダリア園あり	11月11日	O

対詠 ごきげんいかが？

小野澤繁雄
布宮 慈子
河村 郁子

冬の間は枯れたようなに辛抱がいると庭の人鉄線の花

5月11日 O

鉄線が花芽つけしといふ母のよろこびの声つつましきかな

5月21日 N

亡き父の賞でしは鉄線こむらさきいつしら庭に見あたららずなり

5月23日 K

草刈るといふほどの荒草ののび母とこし墓そのままに母

5月25日 O

草刈りてマルチにすれば肥やしとて畑の草を無駄なく使ふ

5月31日 N

外構のリフォームに生れし一隅を坪庭と成し隣人招く

6月2日 K

落ちている花片ひとつもないことに土木事務所は泰山木の花

6月6日 O

いつぽんの泰山木あり白花を山の道より見上ぐはつなつ

6月12日 N

泰山木さがしあぐねて三千歩心に還す花 りくぎえん 六義園

6月17日 K

バスが停まって乗る人がいる流川そこにも何かよろこびがある

6月23日 O

水無月が終はらむとす水田に囲まれてゐる百目鬼温泉 どめき

6月29日 N

庭石の上のくぼみに雫落つ青き葉よりの矮小惑星

7月5日 K

聞いてまでしりたき花名にアガパンサス庭にみるとも多く終盤

7月8日 O

てのひらを蜂に刺されつ実りたるブルーベリーを摘み取らむとして

7月12日 N

真夏日の墓参すませて涼をとる菩提樹の葉かげに青き実あまた

7月14日 K

少年はのびのびとしてかたわらは母か触れつつ待合室に

7月22日 O

合歡の花ほわほ咲きて山越えの道明るめり夏の雲湧く ねむ

7月27日 N

百日紅のたわわに白き花の咲く枝先叩くゲリラの豪雨

8月2日 K

いつの間に百日紅も盛りなれしとどに落ちて踏まれる花片

8月9日 O

若者が真夏の成人式終へてドレス、スーツで通りへ繰り出す

8月14日 N

盛夏らしくない日の続くアンニユイに記録的短時間大雨予報 なつ

8月19日 K

みるときはひとつならずにみる花にリコリスの花盛夏この今日

8月21日 O

暑き日を眠らせるごと三日月と木星ちかづき西に輝く

8月25日 N

対詠 ごきげんいかが？

K N O
河村 郁子
布宮 慈子
小野澤繁雄

山形の家庭菜園きさらぎの雪に覆はれ春を待つなり

2月12日 N

春一番さなかの午餐は横浜港船上なれど航行中止

2月18日 K

砂山のようなる頂き宝登山は風に洗われ岩が出ている

2月19日 O

南より黄の花のメール来てをればじわじわと屋根の雪とかす雨

2月23日 N

沈丁花の花芽ふくらみ調ふもわれの心の備へ未だし

3月8日 K

かけつばなしにしておくCD「ドン・ジョヴァンニ」に騎士長はすぐ殺されてしまう

3月9日 O

震災から六年を過ぐアレクシエービッチ『チェルノブイリの祈り』読みたり

3月13日 N

白木蓮の咲き初むるころ思ひ出づ六年前の新宿流民

3月14日 K

列なつてどこまでのみち制服は競輪学校の生徒ら近く

3月20日 O

忬度といふ字を知りぬ国会の籠池さんの証人喚問

3月23日 N

OEDに「ポスト真実」載るといふ情報の真偽がカオスの時代

3月25日 K

裏通りはさらにもさびしさながらに民家こんにやく工場がある

3月30日 O

どの地にも玉こんにやくがあるものと思ひ育ちぬ祭りの玉こん

4月5日 N

江戸前の穴子の天ぷら塩ふりてパリッと食ぶ 土地の慣はし

4月8日 K

酢漬けもあるとわが生まれ県渋川に苺品種の「弥生姫」みる

4月11日 O

菜の花が置賜の地に揺れをれば吉里吉里忌なり逝きて七年

4月16日 N

三分一湧水館にそばを食む流水分かつ三角石柱

4月18日 K

堤が桜堤に、公園になりし由来も人の関わり

4月19日 O

武蔵野市桜堤に保育園、小中学校を過ごしたる子ぞ

4月23日 N

よみがへる原風景のさくら桜ちちはは姉と歩みし上野

4月27日 K

平日の牡丹園内藤の下車いすの人多くがやすむ

4月30日 O

二十度を超す陽気なり桜桃のすなはち白き花は満開

5月5日 N

ひとところを占めて群れ咲く蝦根草父の植ゑしは五十年前なる

5月10日 K

対詠 ごきげんいかが？

K N O
河村 郁子 小野澤繁雄
布宮 慈子

汐留の街路樹に残るわづかなるいちやう黄葉光を受ける

12月9日 K

港区に北限とする榧かやありてためらわず実を拾う人あり

12月10日 O

切られゆく上野の森の大き木はヲウヲウといふ声あげるらむ

12月15日 N

黄葉を落とし終えたる大銀杏すべての枝が青き空指す

12月18日 K

どんな水も拒まぬ海を「同事」という清見寺門にことしさとしは

12月19日 O

海猫の餌付けやめたる加茂水族館 みなみの空に積乱雲わく

12月22日 N

訪れしつがる富士見湖に白鳥の飛来を告げる歌友ともを嬉しむ

12月25日 K

畑すみの枯れ枯れとする枝先に下つて塊は綿かな白し

12月27日 O

畑には雪うつすらと南天の赤きが映ゆる歳末となる

12月30日 N

2017年

はつはるを迎へる庭の華やぎは千両万両おも万年青との朱の実

1月2日 K

みちすがら鷲大神社なるに寄り詣でる人らみるついたちの朝

1月5日 O

汚れとも澱おりともつかぬこれの世を覆へる白に重力失ふ

1月9日 N

大統領就任前の礼節を欠きたる言動 信頼できぬ

1月12日 K

夜に出てみしお星さんおの付かぬ星さんという人二人しる

1月15日 O

トランプの演説いかにさるるが話題となりて美容院出づ

1月20日 N

大統領就任演説に虚しかり メイクアメリカグレートアゲイン Make America Great Again

1月21日 K

（ヘアメカ（で）の殺戮）というトランプに極端な言葉がある極端

1月23日 O

壊し屋か革命家なのか喧かまひし渦の中心はドナルド・トランプ

2月2日 N

独占欲強きがゆゑの富裕層 国を独裁することならじ

2月4日 K

みちぞいの家庭菜園に一区画五番本格鶏も飼っている

2月8日 O

対詠 ごきげんいかが？

小野澤繁雄
 布宮 慈子
 河村 郁子

9月21日 O 出番とうことはあるのか納屋破れてかかし数体倒れている見す

9月27日 N かすかにも金木犀の香りして秋ふかくなるこの世の夕べ

9月30日 K 金木犀のあはき香りにいざなはれ木下に入りて息をひそめる

10月3日 O みるとなると目につくものが花なれば今日二、三か所金木犀の花

10月8日 N 店先に葡萄並びをり安芸クイーン、シャインマスカット、ロザリオビアンコ

10月10日 K 病床の父に剥きぬしマスカットわが口内に入れたる不覚

10月11日 O 果物を口にすることなさそうな子が来れば梨、柿の皮剥く

10月20日 N アケビ好き茂吉はいかに食ひしかとアケビの皮を炒めつつ思ふ

10月23日 K スーパーの滑子ワンパック手に取りて山路にたんまり採りし日思ふ

10月24日 O みちの先垣にまつらうごとくにし烏瓜下るみるなき数に

11月3日 N 南天の赤き実はある小鳥来てついでむ冬の訪れ近し

11月5日 K 訪ねこし奥つがるの地に満天星の朱極まれり 地上の星か

11月6日 O この秋はかかし祭りの出し物に車いすテニスすは本物

11月7日 N 秋深し介護施設へ送りてのち義母の植ゑたる菊の花摘む

11月9日 K 咲く花の絶えて久しきわが庭の千両の実に朱の色映ゆる

11月14日 O 白かったり紅かったりと生垣に刈り残されて花は椿花

11月19日 N 舞台には赤きドレスの人をりてジャズの歌声ゆふべを満たす

11月21日 K スーパーの駐車場に赤いWわが愛車なりしとしばし偲びぬ

11月24日 O 二株というほどの鉢にみることもあやに少なき金欄紫蘇みる

11月24日 N 冬タイヤに替へて雪なし雪国のテレビが映す東京の雪

11月30日 K 雨戸明け見はるわが庭異界なりなべてを覆ふ霜月の雪

11月30日 O 銀杏の葉の落ち切らぬうちに雪が薙ぐNHKの絵にしてみるなき

12月3日 N 暮れ方の美しくなるころ南西の空に相寄る月と金星

対詠 ごきげんいかが？

小野澤繁雄
布宮 慈子
河村 郁子

楽しみに畑へ行けばオレンジの亀虫、天道虫の幼虫もゐる

5月29日 N

丈低く剪定したる庭の木の新芽が枝になりて広がる

6月2日 K

飼われてもいるかのようにとり声が一つ家内庭をはなれず

6月6日 O

郭公の縄張りならむ朝なさな電線に来て鳴くオスがゐる

6月11日 N

堀辰雄記念館を辞するときまむし草二本が見送ってくれる

6月14日 K

人と犬またはスマホか発報のごとくに声は草かげに生れ

6月20日 O

水田は青々として遥かなりあかむらさきの駅の紫陽花

6月28日 N

けぶる雨にしきり偲ぶは三室戸寺の色とりどりのあぢさゐの園

7月1日 K

アジサイの山を歩いて境内にクラブアップル小さき実かこむ

7月2日 O

入り口に飾つてあれば紫陽花の一つ一つが挨拶をする

7月8日 N

道の辺の額あぢさゐの揺らぐなり実らぬ花のいやはての白

7月12日 K

イケメンでかわいいというウォータードラゴン爬虫類好き意外に女子たち

7月19日 O

「ポケモンGO」幻視とリアルの境目をうろろするはゾンビのごとしと

7月27日 N

パソコンをWindows 10に換えました脳細胞の残余恃みて

7月30日 K

さまざまのその日はあれど定年の日となりし机上Win7で

8月4日 O

Windowsを遠く離れて来たりけり 素朴に在るはMacのころ

8月12日 N

初めてのパソコンはMacのデスクトップ日夜画面に嗤笑されぬし

8月17日 K

河川敷は草が倒され出水跡黄蝶白蝶上にしあそぶ

8月22日 O

だんだんと大きくなりて近づくは台風10号「ライオンロック」

8月28日 N

突然の強風に不意によろめきてデータベースに「老女」加へる

8月29日 K

倒されし稲も刈られて同時にか案山子もすでに片づいている

9月4日 O

黄に染まる稲穂の海は重たくて稲刈りもうすぐもうすぐ稲刈り

9月14日 N

黄金なす稲穂を見しは遥けき日心みたされし小牛田の駅に

9月16日 K

対詠 ごきげんいかが？

小野澤繁雄
布宮 慈子
河村 郁子

白鳥のつよき羽ばたき常ならず北へと向かふ群れのどよめき 2月28日 K

ピチピチと肩先に鳴く小鳥らと思いいしのみみてはみえない 3月2日 O

いち早く目覚むるは鳥 うす明かりしてゐる窓に春の声して 3月7日 N

雀らの囀り知らず目覚めたり餌皿の上の麦粒ひとつ 3月9日 K

あしもとという小ささに地藏さま目鼻もないに供花に菜の花 3月15日 O

早春を告げてふはふは黄に咲くは兄植ゑしとふマンサクの花 3月25日 N

南伊豆の菜の花畑えうえうと強き雨にもめげず広がる 3月26日 K

春の川水のおもては穏やかにまじりあう波ときに戻り波 3月29日 O

風吹いてひと月遅れのひな市が立てばふるさと春になりたり 4月2日 N

花咲けどパソコンに向かふ家ごもりさ庭の八重の椿と語らふ 4月6日 K

東京の人そんな言葉も古りしかなマクドナルドに『雪国』を読む 4月7日 O

雪国に桜のつぼみ色づきて井上ひさしの吉里吉里忌なり 4月9日 N

老いの手がつまみ菜摘みてわれの手へ「今夜のおひたしおいしくなるよ」 4月13日 K

畑中をさらにも囲むひとところ梨畑に花波打つばかり 4月16日 O

畑中の道きらきらと自転車弾みて行けり高一ならん 4月21日 N

街中に夜来の雨の露のこし区民農園の若菜いきいき 4月22日 K

あるときに気づいて手にもとりし茶に八女茶(福岡)読み「やめ」むしろ 4月26日 O

レスターは岡崎慎司のゐるチームにて英国のへその位置と知りたり 5月4日 N

慶州に遠山のぞみ憩ふとき新羅の女と語らふこことち 5月7日 K

括られて云う春秋か新羅王チュンチュ(春秋)が成しし三韓一統 5月9日 O

「冬ソナ」をまとめて観ればハマりたるわれを恐れて以後近づかず 5月13日 N

新羅よりの慣はしらしも客人に妻女は給仕す同席なさず 5月15日 K

夫婦して春の畑に出ているか小さき耕運機に音は大きく 5月22日 O

対詠 ごきげんいかが？

K N O
河村 郁子 小野澤繁雄
布宮 慈子

商いの中味のしれぬ小工場みちに並んでみな雨に濡る

11月20日 O

冬支度をせかすやうに時雨ふる青菜大根蕪かぶらもらへば

11月25日 N

庭石によせて植えたる千両の実の色づきて時雨にぬれる

11月27日 K

秋雨に駆まで歩く思うことあるというよりただ映るもの

12月5日 O

晴天のつぎの日は雨 山形の空を眺めて四年が過ぎぬ

12月13日 N

顔見せの跳ねて数寄屋橋通るころ時雨するなり濡れて行かうか

12月19日 K

丘の上は小学校か折々に声かはじめて沼面越え来も

12月26日 O

2016年

年末に降りし雪さへ融けてきて露はになりぬ田の面、畑の面

1月2日 N

初詣の長き列より見上げゐる青空やさし インディアンサマー

1月5日 K

ようやくに寒さも底という市の川橋欄干に一つさつま芋載る

1月19日 O

おせつかいなをばさんとなり雪搔きすお日さま照れるをよろこびとして

1月21日 N

北側の雪搔きすれば日も照らず積む場所もなくまず背伸びする

1月25日 K

雪残る団地かたわら白梅の花咲き出しぬ予期せぬひとつ

1月28日 O

コロコロと粘着クリーナー動かしてとうに逝きたる猫の毛さがす

1月31日 N

立春のわれのならばし白飯に庭の紅梅一輪のせる

2月4日 K

二月にもなりてようやく枯れるべき枯れて川の辺土手に冬来る

2月6日 O

ユズ色の耳鼻咽喉科医院あり先生せんせでかくてその声やさし

2月10日 N

土佐の国ゆ「越冬みかん」を給はりぬ深き緋色に比喩あらくに

2月17日 K

柑橘系とまではも知れて実の何だろ鳥のすがたが実をつつきいる

2月21日 O

山ぎはを白鳥が行く七、八羽 北へ北へと飛び行くいのち

2月25日 N